地歴公民(政経)　　早稲田大学　商学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間　60　分

解答形式
　記述式(13)、選択式(38)
分量・難易（前年比較）
　分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
　難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
　大問数は４題で昨年度から変化はなかった。解答すべき設問の数は51で昨年の49から微増した。
出題の特徴や昨年との変更点
　大問４題中３題が経済分野からの出題であり、昨年度と同様に経済分野を重視しているという特徴がみられる。
その他トピックス
　特になし。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述 選択	【政治分野】 基本的人権の保障	基本的な知識を試す問題が多い。しかし、問６では「ビジネスと人権に関する指導原則」、問７では、いわゆる「現代奴隷法」（サプライチェーンから奴隷労働を排除しようとする労働法制）について細かい知識が問われている。	やや易
Ⅱ	記述 選択	【経済分野】 市場メカニズムと金融	基本的な知識を試す問題が多い。問４の解答は「ストックオプション」であるが、設問文では「カタカナ２単語で」となっているが、「ストックオプション」は１語なのでは、と考えた受験生は解答に迷ったかもしれない。問９の需要曲線の傾きに関する問題は、昨年度とほぼ同趣旨の出題である。	やや易
Ⅲ	記述 選択	【経済分野】 経済思想と賃金	基本的な知識および読解力を試すものが多い。問１の「自然価格」と「市場価格」の違いについては、知識問題ではなく、読解力が要求されている。問４～６は、政経選択者にとってはやや馴染みの薄い『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の「精神」』からの出題であったが、問４、５は読解力で解くことが可能である。	やや易
Ⅳ	記述 選択	【経済分野】 財政と社会保障	基本的な知識を試す問題が多い。問３の消費税の仕組みについての問題は、時事的な知識も含まれておりやや難しい。また、問４では、消費税の「国税に対応する税率」が問われており、消費税の一部が地方税にあてられているという知識が必要である。問８の国債の保有者別内訳に関する問題では、「民間金融機関」「年金」「家計」の順位についての知識が必要でありやや難しい。	やや易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2024年

地歴公民(政経)　　早稲田大学　商学部　2/2

＜学習対策＞

学習にあたっては、まずは教科書レベルの知識を確実に習得することを心がけよう。そのうえで、時事問題の対策のために、日々のニュースや資料集をチェックしておきたい。また、本学部では経済分野からの出題の比重が大きいので、特に経済分野については念入りに学習する必要がある。出題傾向を把握するために過去問には必ず目を通しておこう。

© 河合塾　2024 年